

メディアが伝える食品のリスク

毎日新聞の小島正美

2015年9月16日

大阪府

1

きょうの話

- ①トランス脂肪酸記事に見る記者、メディアの相違。情報の信頼度をどう考えるか
- ②市民と専門家のリスク認知の違い
- ③異物混入といまの社会
- ④リスクとはそもそも何か
- ⑤GM作物のリスクの伝え方
- ⑥市民社会での科学とは何か

2

トランス脂肪酸とリスク

トランス脂肪酸は怖い物質か？
報道に見る各種情報をどう見るか

3

トランス脂肪酸は添加物？



◎6月18日の日経。「2018年から米国は食品添加物のトランス脂肪酸を禁止と発表した」と報道

◎時事、共同も同様。

◎本文では「水素を加える過程でできる」ともあり、添加物かあいまい。

■あなたなら、どう対処するか。

4

週刊文春(7月9日号)



◎植物油よりも動物油が安全。本当か。

◎ラットにバター、ラード、マーガリンを与え、マーガリンは寿命短い。

■トランスは体内で代謝される。乳製品にもバターにも含まれるのに。

◎少数派学者が登場

5

善悪二元論のリスク



◎世の中に良い油と悪い油がある。よい油を摂取し、悪い油を避ける。これがマスコミ受けのリスク論

◎私の知り合いが、200グラム2800円のエゴマを毎日飲んでいて、70代で死亡。

◎スティーブ・ジョブズ氏はなぜ手術を拒んだ？

6

NHK(7月24日)



◎「私は避けている」との米国人2人を登場させ、学者が「禁止は医療費の削減になる」

◎マーガリンやショートニングでなく、バターで菓子を作った事業者「売上1.5倍」

◎「表示なしで消費者に不安ですね」(NHK司会)

私の記事は文春、日経と異なる



◎全面禁止でない。禁止は水素添加油(硬化油)。GRASの対象でなくなる。つまり、2018年から食品添加物扱いへ。

◎日本人の摂取は0.3%。規制の必要性低い

◎各種文献をメタ解析した食品安全委員会の見解を重視。

他の媒体は

◎朝日・読売＝日本人は0・3%の摂取。心配なし(食品添加物とGRASの関係の説明なし)

◎ライブドア・ニュース(ネット)＝「米国でトランス脂肪酸が禁止」報道は誤り。規制されたのは硬化油。食品安全委員会のHPを紹介

◎Jcastニュース(ネット)＝「安全と認められない」米国は18年に全廃、日本はどうする？

◎フーコム(瀬古博子さん)「脂肪の取りすぎが良くないという基本的なことが報道にない」

9

トランスをどう見るか

①新聞、テレビ、週刊誌、どれを信じるか

②新聞、テレビ、週刊誌の、どの媒体の記者を信じるか(問い＝新聞はなぜ、冷静だったか)

③新聞、テレビ、週刊誌の、どの専門家を信じるか

■判定方法＝ニュースの構図(記者の狙い。登場する学者は少数派か。あおって売上を伸ばそうとしているか。正確性を重視しているか。

10

なぜ、新聞は冷静だったか

◎食安委は日経の記事の翌日。登録記者に「これは間違い」と一斉メール。「全面禁止ではない。GRASからはずすと公表しただけ」。すぐに「カウンター情報」を伝えることが重要。おそくても2日以内がよい。

◎週刊誌は「個別の記事に対応しない」。反論を受け付けられない媒体は信用できるか。それでも意見だけでも出せば、一定の抑止力あり。

◎食安委のような「メディアのメディア」に期待。

11

学者の見解の見極め方

【どんな学者か、よりも、どのような思考方法、分析手法で結論に至ったかが重要】

①一人の意見、ひとつの論文よりも、メタ分析(質の高い複数の論文の総合的な分析)の結果を重視したか。

②過去の業績。専門性の裏付けあるか。

③その人の属する学会の合意は？

④自分の価値観とメタ分析を切り離す

12

両論併記の罭

【専門家の間で意見が分かれている？】

◎専門家の比率は、99%×1%か

50%×50%か

◎メディアはどの場合でも「意見が分かれている」と表現。

■根源的な課題＝少数派の意見を取り上げるのがメディアの役割という社会科学の見方もある。1%の専門家も取り上げるべきか？

13

メディアのまとめ

◎主要新聞は心配なし。規制の必要低い

◎NHKはややあおった。表示は必要。

◎一部週刊誌はあおった

◎ネットは半々に分かれた

◎政府はメディア、世論に動揺せず

■結果としては、扇動的な空気は生まれなかった。

14

ニュースは、一部専門家、一部市民の見解で十分に成り立つ

◎ニュースはすべて記者の主観的な作品。見出しも、中身も主観的。

- ・NHKなので信じるは正しいか
- どんなニュースでも造れます！

15

世の中に「悪い化学物質」と「よい化学物質」があるは、本当か

- ・毒性は「量」次第
- ・健康によい物質でも大量に摂取すれば、悪影響を及ぼす

16

世の中には正反対の情報が氾濫。どうやって見分けるか？

17

私の判断法

- ① 問いあわせに応じてくれるか(ショ糖脂肪酸エステル の例、発がん、胎児に染色体異常)
- ② その話は、査読付き論文に載っているか
- ③ 出典を明かすか。単なる個人の意見か
- ④ その道の本当に専門家か。科学的な素養が分かるようなモノ言いか。
- ⑤ 常識を覆す主張には、常識を覆すような根拠が必要。それはあるか(「がん放置」は革命的)

18

ミツバチと農薬

- ・だれが、だれに間違いを伝えるか
- ・問題の全体像ははたして伝わるか

記者は学者を信じて書く



査読付き論文に出たか？

■農水の研究所の研究者らが「高濃度4ppm、中濃度0・8ppm、低濃度0・4ppm。1ミリ^{グラム}の砂糖水に溶かす。ミツバチが1日に飲む量はLD50の約3倍だった」と発表。

■ネオニコ農薬でミツバチ、ウズラに影響などの話も記事になったが、出たのは大学の紀要。他の科学者の査読を通過したかを確認したい

◎記者は「低い濃度」と思っていたと私に言った

21

間違いを知らせるのはだれか

◎ミツバチの農薬実験の不備は、農水省の研究者らが月刊「現代化学」に投稿して初めて分かった。なぜ、記者に知らせないのか？＝専門家の怠慢か？

◎共同通信は続報で伝えたか。伝えていない。なぜ、フォローしないのか。

◎メディア報道に対するカウンター情報をどうやって市民に知らせるか→「メディアのメディア」か「記者向けセミナー」が必要

22

西洋ミツバチの実態

- ◎西洋ミツバチは米国、日本では外来種
- ◎巣崩壊の現象はフランス、米国。日本での巣は1960年代より多い。ニュージーランド、トルコ、アフリカでは増加。豪州はネオニコ使用、何も起きていない。EUは13年12月から予防原則で暫定制限。菜種の生産量低下(害虫のせい)。
- ◎がんが増えたのは農薬のせいという学者もいるが、長生きする人が増えたからは常識。

23

農薬と基準値

【なぜ、農薬の残留基準値は作物ごとに異なるか。基準値を超えることと健康影響は無関係】

- ◎クロチアニジンの基準値
- ◎なぜ、肉類は低いか
- ◎農薬を使わない食品は一律基準
- ◎実際に流通する食品の残留レベルは0.001 ppm前後。影響はほぼゼロのレベル

24

確証バイアス＝思い込みの危険

◎ミツバチに悪いのはネオニコ→死んだミツバチからも花粉からもネオニコが検出された→やはりネオニコが原因だった。そういえば、子供の発達障害が増えている。細胞の実験では脳神経細胞にも悪影響する→子供の発達障害にも関係しているはずだ。EUは使用制限措置をとった。なぜ、日本は放置？

■確証バイアス＝いったん思い込むと自分の眼鏡に合った情報ばかりを追うようになる

25

ミツバチその2

◎多数の学者の見解＝ネオニコは過去の有機リン系などに比べ、人畜への毒性は低い。農薬でトンボが減ったという国立環境研の五箇氏も「安全性は向上」と。

◎ハナバチの方が授粉に貢献

◎農薬とミツバチの関係は1940年代からあった。米国の養蜂家アンケート。1位は栄養不足

◎野外の農薬レベルでは影響なしの文献が多い。しかし、メディア報道は偏っている。

26

ある学会的一幕(金沢)

◎群馬県では2006年以降、果物やお茶を摂取したあと、全身けん怠、筋肉の痛み、記憶障害、頭痛、ふるえ、発熱などの症状が数百例。市販のペットボトルは農薬で汚染、飲むな！

■反論＝重い症状はあっても、尿から非検出の例。健康な人でも検出されるが症状なし。市販の食品に含まれる濃度はADIの1%以下。

再反論＝人と動物は違う。毒性試験の結果だけで判断してはいけない。だれも納得せず。

27

サイエンスメディアセンター

《SMC発サイエンス・アラート、8月25日》

■英国の研究者がネオニコ農薬の種子コーティング使用量の増加はミツバチの減少と関連

・永井孝志氏(農業環境技術研)＝相関はあっても因果関係ではない

・林岳彦氏(国立環境研)＝見かけ上の相関関係の可能性。統計解析に問題など

・五箇公一氏(国立環境研)＝野外観察による景観スケールは評価できるなど、ほかにも

28

ヤモリと母とリスク認知



◎毎日、家の窓に、トカゲが留まり、気持ち悪い。

◎どうしよう

◎近所の人が出た

◎まあ、可愛い。赤ちゃんみたいな手だね。

29

なぜ、すしを笹の葉に包む？

◎笹の葉やヒノキの葉から、抗菌作用のある安息香酸が出てくる。これは天然の化学物質

◎燻製の肉からも、天然の抗菌物質

■これらの天然の抗菌物質は「食中毒の防止」「賞味、消費期限の延長など保存に役立つ」(低温管理はエネルギー、コストの増大)「食品廃棄の減少」に役立つ。

■ならば、それと同じ化学物質を安く合成すればよい。それが食品添加物。同様に分解する

30

無添加は大丈夫か？

【無添加】

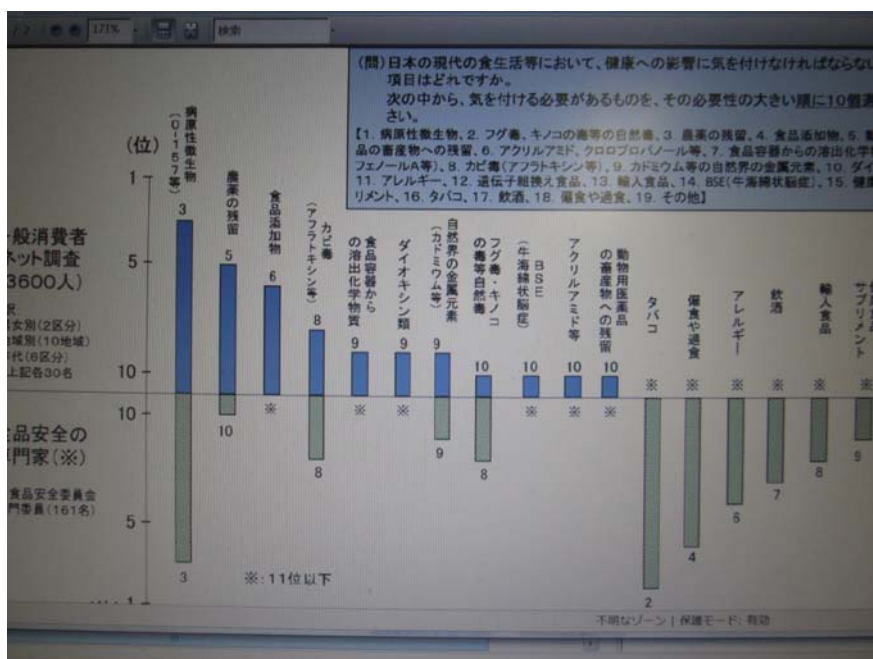
- ◎開封したあとから、細菌、カビが増殖。危なくて要注意。
- ◎細菌は目に見えない
- ◎食品ロス多い
- ◎細胞や動物実験の話(大量に与えたら障害)だけではリスクの説明にならない。

【わずかな保存料】

- ◎食中毒の防止。毎年2万人の被害
- ◎食品ロスを防ぐ
- ◎体の酵素は、人工か天然かは無関係。どちらも分解する(たとえば、ソルビン酸は水と二酸化炭素に分解)

31

市民と専門家のリスク認知の違い



32

なぜ、農薬と添加物か

◎消費者は人工的合成物＝危険、天然＝安全

◎「自分で選んだ」リスクは、大きなリスクと感じない。強制的なリスク(鉄塔の電磁波は大きく、電気かみそり、掃除機は小さい)は大きく感じる

◎人工的でも企業がつくったなものは、責めやすく、リスクは大きく感じられる。天然は攻撃対象にならず。食中毒は事件にならず。

■消費者は客観的な死亡の指標で判断していない。私の見方は「ニュースになるものが危険」

33

リスクとハザードは異なる

◎メディアは「ハザード」(怖いもの)に着目。どっちが危ないかという二元論は要注意。企業の不祥事などを通じて、リスクの大きさを報じるケース多い。不祥事とリスクは無関係。

◎ライオンは危ないですか。

◎農薬は危ないですか

◎放射線は危険ですか。

■どれも潜在的な危険性(ハザード)あり。リスクの大きさは、摂取量、管理次第で変わる。

34

リスクとは何か

- ◎携帯電話＝リスクと便利さ(ベネフィット)
- ◎水道水の塩素殺菌＝リスクとリスク(がんかコレラなど病原性微生物の死亡か)
- ◎魚のPCB、水銀、カドミウム。米のカドミウム、ヒ素＝食文化、疫学的な健康調査
- ◎ポテトフライのアクリルアミド＝リスクとおいしさ(おいしさもベネフィット?)。アルコールは？
- ◎電線の電磁波＝ALARA(社会的経済的なコストの範囲内でできるだけ対処)

35

グリホサートはグループ2A



◎3月24日、毎日新聞(時事通信)に掲載「WHOは5段階で上から2番目にリスクが高い2Aに」

■グループの分類は危ない順番か？

◎グループ1にアルコール、紫外線、放射線、カドミウムなど。毎日アルコールを飲むのは危ないか。

36

記者の知識不足とリスク報道

◎時事通信の配信(15年3月20日)=IARCは「グリホサートは5段階で上から2番目にリスクが高いグループ2Aに分類」と報道。

①IARCは3月20日、マラチオン、ダイアジノン
を2A、パラチオン、テトラクロルビンホスを2B
に分類(なぜ、グリホサートだけを記事に?)

②ドイツの評価機関が反論した(記事になっていない)③グループ分けはリスクの順番ではない■間違いを記者、読者にどう伝えるか課題。

37

阪急阪神ホテルズ偽装＝初期 情報がいかに重要か

- ・記者が納得する説明なのか?
- ・新聞の締め切り時間も考慮?
- ・だれがいつどこで説明するか

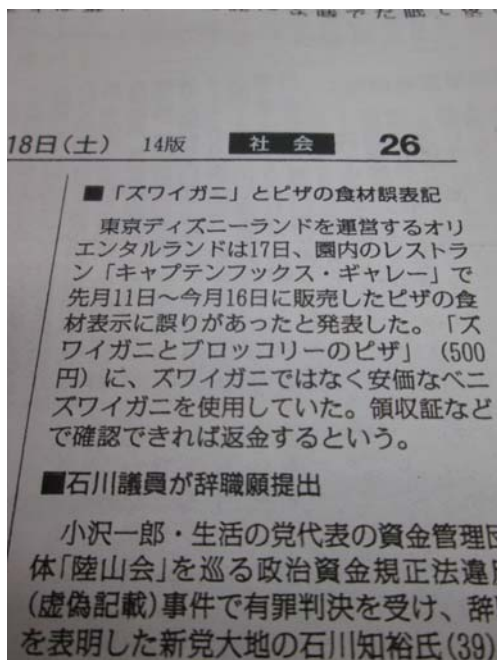
38

なぜ、大阪で大問題に？



39

13年5月18日朝刊ベタ扱い



40

6月18日第三社会面ベタ



◎ディズニーランドのオリエンタルランドはピザの食材に誤表示。ズワイガニはベニズワイガニでした。

◎プリンスホテルがアブラガニをズワイガニと表示、国産鶏を地鶏と。「部門間の情報伝達の不備。」

■どちらもビッグニュースにならず。なぜ？

41

午前10時ごろの会見は最悪？

①午前9時半、広報担当者が社会部記者クラブでレクをやると公表。「締め切りが近く、最悪」。「テレビには連絡せず」。新聞を見て、テレビ各者は激怒。午後に役員の見会。社長は出てこず。対応が後手後手。

②毎日新聞は「あの高級な阪急。8万食で誤表示、大問題。一面でいこう」。他社も追随。

■大阪社会部と東京経済部の差。記者の感覚、センスは部署で異なる

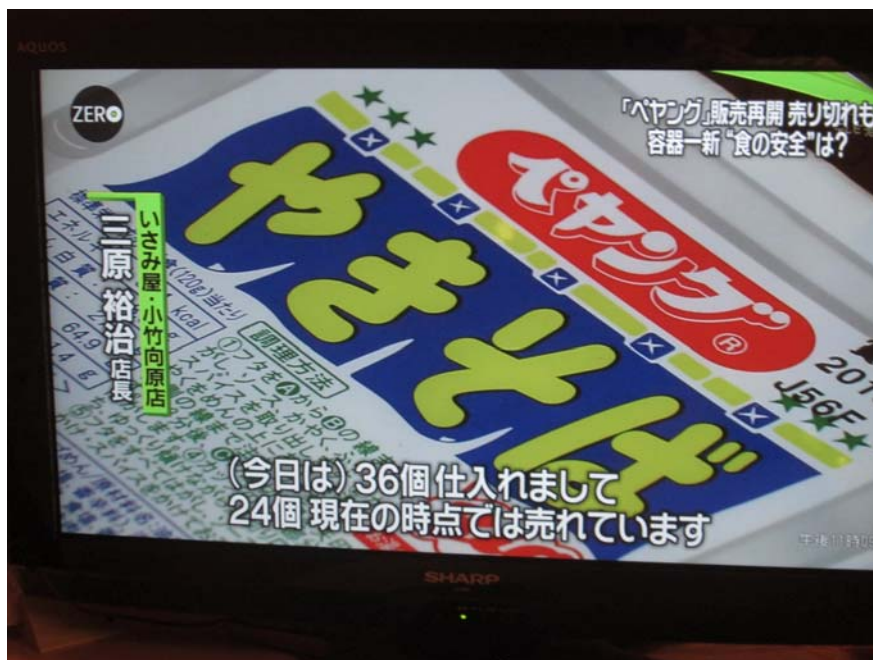
42

異物混入問題

- ・メディアも行政も抑止力なし
- ・記者の発想はワンパターン
- ・記者の勉強不足にどう対処

43

ゴキブリ1匹で世界初の珍事？



44

テレビは食の安全問題？



45

ペヤングやきそば1

◎14年12月2日、大学生がツイッターにゴキブリ混入写真を投稿。3日朝、保健所と「まるか食品」に連絡。社員が大学生を訪問「結果が出るまでツイートを削除してほしい」と要請。一時的に削除。会社は現物商品とその値段で買い取った。◎大学生は「お互いのためとかいって、圧力をかけてきた。カチンときた」と不満をツイート。◎3日夜、保健所が「製造工程での混入否定できず」と自主回収を指導。

46

ペヤングやきそば2

◎4日、社は「通常の工程上、このような混入は考えられないが」と言い、商品2品の製造休止と自主回収を発表。4日午後、担当者が大学生を訪問「新聞におわびと回収を載せる」と説明→大学生は「誠意をもって対応していただいた」とツイート。◎10日、日清食品が冷凍パスタに虫で74万食の自主回収を公表◎11日、全工場の生産自粛と全商品の自主回収を発表。■企業防衛を優先し、対応に1週間以上も。

47

リリースの言葉

◎「通常の製造工程では、このような混入は考えられないのでございますが、回収します」はお客に信頼される言い方か？

■ある記者は、「責任逃れ」に聞こえる、と。

■たとえば、「ただいま原因を調査中ですが、万が一を考え、回収させていただきます・・・」みたいにする。つまり、あとで訂正される恐れのあることを初期の段階で書かないことが重要。

48

公表の難しさ・マクドナルドの例

◎毎日新聞の記事＝「課題は異物混入の公表のあり方」→「異物混入は客への個別対応が基本。他店でも起きる拡張性がなければ、公表しない」と述べ、発表したのは4件のみで、年間の異物混入件数に対し、口を閉じた。

◎マックはリスコミの基本を遵守。3時間も会見。他業界から見て問題点なし。しかし、メディア（特にテレビ）は違った。

■マクドナルドゆえの特殊性もあった

49

マックはマスコミの餌食に

◎かつての王者、強き者の売り上げが落ちて、敗れる姿はおもしろい。

◎上海事件で強気の会見。「マックは被害者」カサノバCEOが傲慢に映った

◎そこへ、異物混入。ニュース価値は倍加

■マスコミは中立公平ではない。おもしろい素材にはすぐに飛びつく。

50

会見の答え方

◎米国のCDCやNASAの会見はすばらしい。答えるときに「この答えで納得しましたか」とか「この説明でよろしいでしょうか」と記者に問い返す。

◎記者が納得しなければ、再質問し、さらに詳しく答えることになる。

◎マックの「件数はお答えできない」では、それがニュースになってしまう。

51

異物混入の件数をどう公表

マスコミが納得する形でどのように公表するかが課題。今後もマスコミは「異物混入件数は？」と会見で聞く

52

トランス、IARCとも英語必須

◎世界中の情報を読むには英語は必須

◎論文を読みこなす能力も必要。日本語訳まで待つと出遅れる。

■IT革命。イット革命。国会で答弁した元首相

■クリントン大統領と会談

・HOW ARE YOU?といいなさい

そして、答えは、ME、TOO。

◎まちがえて、WH?(だれ)???

53

GMの呪縛は以前続く

- ・メディアは反対する市民に遠慮
- ・よいニュースと悪いニュースセット
- ・実態を知る記者はほとんどゼロ

54

真実を見よう



◎GMコーンで収入アップ
妻は教師、夫は市役所職員。手間暇がかからず、兼業可能。小規模農家でも採用可能。

◎この周辺はほぼ100%GMを導入

■日本の農家にもプラスは間違いなく大きい

55

遺伝子組み換えの真実

◎私を変えたのは「事実」。批判、非難には屈しなかったが、事実には屈した。

◎メリット＝農薬の節約、収量(収入)の増加。土壌の流失防止、省力、環境によい効果(BTコーンは無農薬。ウサギなど増加、飲み水の農薬汚染が減少)＝数百の査読つき論文

◎世界中の研究機関が「問題なし」「従来の作物に比べリスクが高いことはない」

■マーク・ライナス氏の懺悔講演がニュース

56

そもそも市民はいろいろな人

◎ニュースは有料の商品。パンやテレビと同じ

◎商品が売れている間は会社はつぶれない。
会社を支えているのは商品の購入者＝市民。

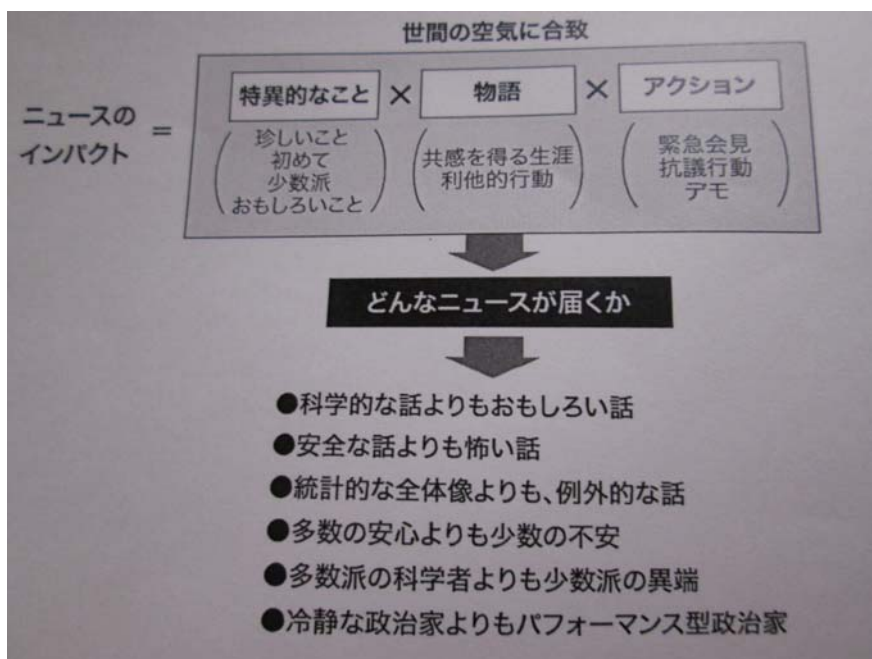
◎ジャンクニュースを支えるのも市民。買う行為は選挙の投票と同じ。買う＝支持。

■朝日を支持する市民対産経の市民は異なる

■週刊誌の特集、偏った本を買うことが偏った情報を生き残らせることを知っておこう。

57

ニュースの方程式の解は？



58

企業とメディアは異なるか

◎企業はなぜ、オールゼロ、無添加のような商品を出すのか

◎週刊誌はなぜ、派手な見出しをつけるか

◎テレビはなぜ、俗悪バラエティ番組を

◎新聞はなぜ、一面的なニュースを

■共通点＝組織の存続。市民のニーズに応じた行動。その結果、おもしろい話、美味しい商品、ユニークな製品が出てくる。